

雷サイトを活用した危機回避能力の育成 ～水泳授業を通して～

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

水泳授業の取り扱う内容にも泳法の習得ばかりではなく、自分の命を守る内容も入っています。海や河川での危険について教えたり、着衣泳も取り入れたりします。本校では、全学年で「浮いて待て」の運動を取り扱っています。

また、子どもたちの学習だけではなく、水泳授業のシーズンは、天候により授業を実施するかしないかについて、各学校、毎朝頭を悩ませることが多いのではないのでしょうか。近年は、水温、気温だけではなく、雨雲レーダー、雷雲レーダーを見ながら授業実施（回避）を判断しなければなりません。本校児童は、水泳が大好きという子がとても多く、中止の判断をするときには、とても心が痛み悩みの一つになっています。

今年度、熊本県では雷アプリ（気象庁：雷ナウキャスト）を使う指導をするというニュースを聞きました。そこで本校でも水泳授業実施の判断の一つとして取り入れてみることにしました。

<熊本県教育委員会が作った各学年向けチェックリスト>

別添2

落雷事故防止のためのチェックリスト

児童・生徒用

7月14日
熊本県教育委員会

一定時間ごとに
チェックするモン♪

©2019 熊本県くまモン

< 活動前 >

- ☐ 天気予報を確認する。
- ☐ 上空に黒い雲がない。
- ☐ 雷の音が聞こえない。
- ☐ 冷たい風が吹いていない。
- ☐ 避難できる場所がある。
- ☐ 雷ナウキャストを確認する。

< 活動中 >

- ☐ 雷の音が聞こえたら教師や周りの人に伝える。
- ☐ 雷ナウキャストで正確な情報を取得する。

< 活動の再開 >

- ☐ 上空に雷雲がないことを確認する。
- ☐ 30分以上、雷が鳴っていない。
- ☐ 雷ナウキャストで新たな雷雲の発生や接近がないことを確認する。

雷ナウキャスト

(問い合わせ先) 熊本県教育庁 県立学校教育課
学校安全・安心推進課 体育保健課
TEL:096-333-2355 TEL:096-333-2711

別添2

雷事故にあわないための チェックリスト

児童・生徒用

7月14日
熊本県教育委員会

ときどき
チェックするモン♪

©2019 熊本県くまモン

< 外に 出る前に すること >

- ☐ 天気よほうを見える。
- ☐ 空に黒い雲がない。
- ☐ かみなりの音が聞こえない。
- ☐ つめたい風がふいていない。
- ☐ にげる場所がある。
- ☐ 雷ナウキャストを見える。

< 活 動 中 >

- ☐ かみなりの音が聞こえたら先生やまわりの人につたえる。
- ☐ 雷ナウキャストを見える。

< 活 動 の 再 開 >

- ☐ 空に黒い雲がないか見える。
- ☐ 30分くらい、かみなりの音が聞こえない。
- ☐ 雷ナウキャストを見える。

雷ナウキャスト

(問い合わせ先) 熊本県教育庁 県立学校教育課
学校安全・安心推進課 体育保健課
TEL:096-333-2355 TEL:096-333-2711

別添2

かみなりじこにあわないための チェック

児童・生徒用

7月14日
熊本県教育委員会

ときどき
チェックするモン♪

©2019 熊本県くまモン

< おそとに できるまに すること >

- ☐ てんきよほうを みる。
- ☐ おそとに くらいくもが ない。
- ☐ かみなりの おとが きこえない。
- ☐ つめたい かぜが ふいていない。
- ☐ にげる ばしょが ある。
- ☐ 雷 ナウキャストを みる。

< おそとに できるときに すること >

- ☐ かみなりのおとが きこえたら せんせいやまわりのひとに おしえる。
- ☐ 雷 ナウキャストを みる。

< にげたあとに すること >

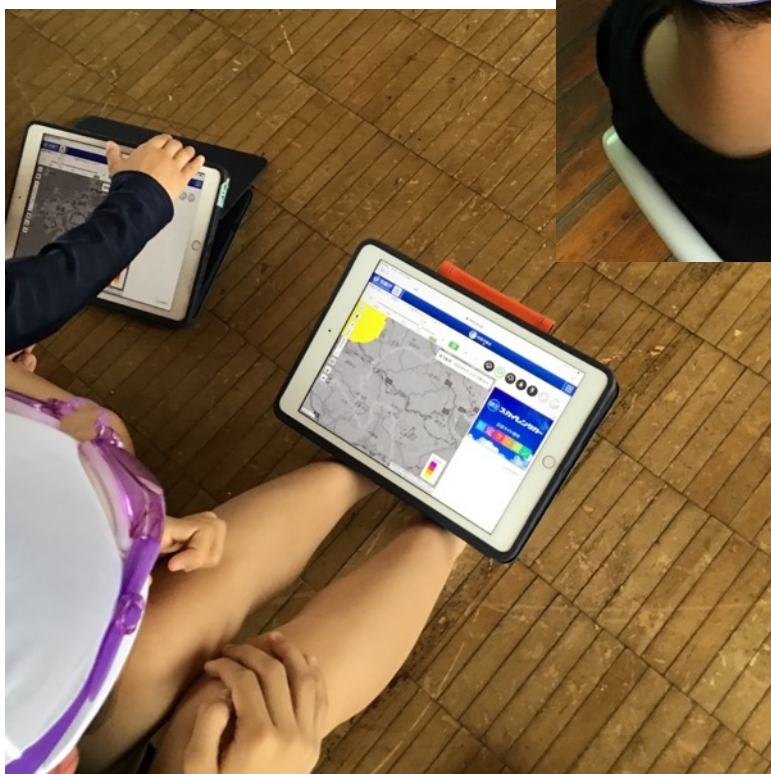
- ☐ おそとに くらいくもが ないか みる。
- ☐ 30ぶんくらい かみなりのおとが きこえない。
- ☐ 雷 ナウキャストを みる。

雷ナウキャスト

(問い合わせ先) 熊本県教育庁 県立学校教育課
学校安全・安心推進課 体育保健課
TEL:096-333-2355 TEL:096-333-2711

本校児童には、タブレット端末のホーム画面に今年度は雷サイト（気象庁：雷ナウキャスト）のURL 入れるようにしました。

本日の水泳授業は途中から退水の可能性があるとして事前に確認

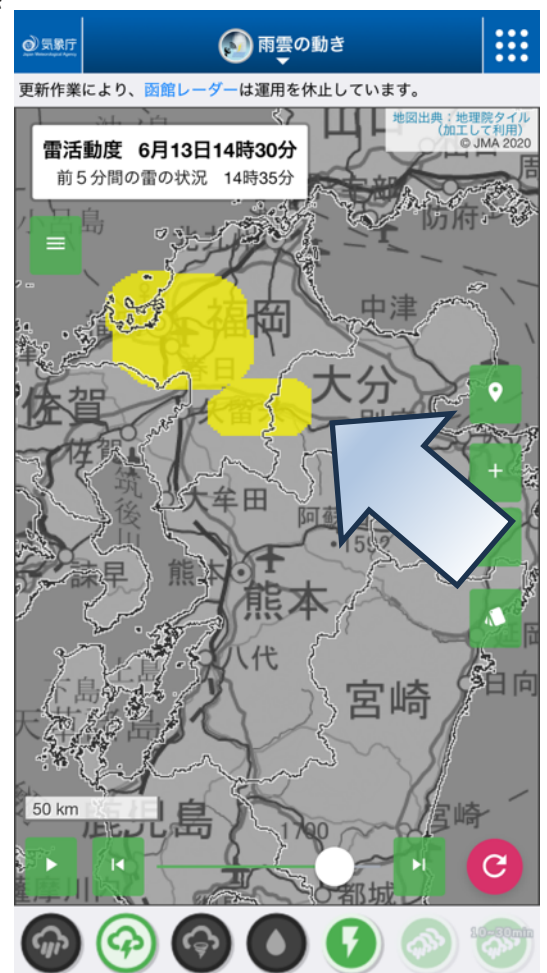




あたりが少しずつ暗くなってきて、再度雷ナウキャストで確認。日田市に雷雲がかかってきたことを一緒に確認し、残念ながら、プールを途中退水して、教室に戻りました。



これが雷雲だよと、児童と確認。





子どもたちも、授業前に雷ナウキャストを見て「やった、今日は泳げる」と喜ぶ姿や、「今日の中止は仕方ない」と、自分で納得する姿が見られるようになってきました。

私たちも、天気予報の雷注意報、警報の有無を中心に水泳授業の実施を考えることが多かったのですが、いつの間にか最先端のテクノロジーを使うことが習慣づいてきました。

「ともに学ぶ」とはということかと、改めて感じているところです。